

第2章 健康づくりを取り巻く 坂戸市の現状

1. 統計データ

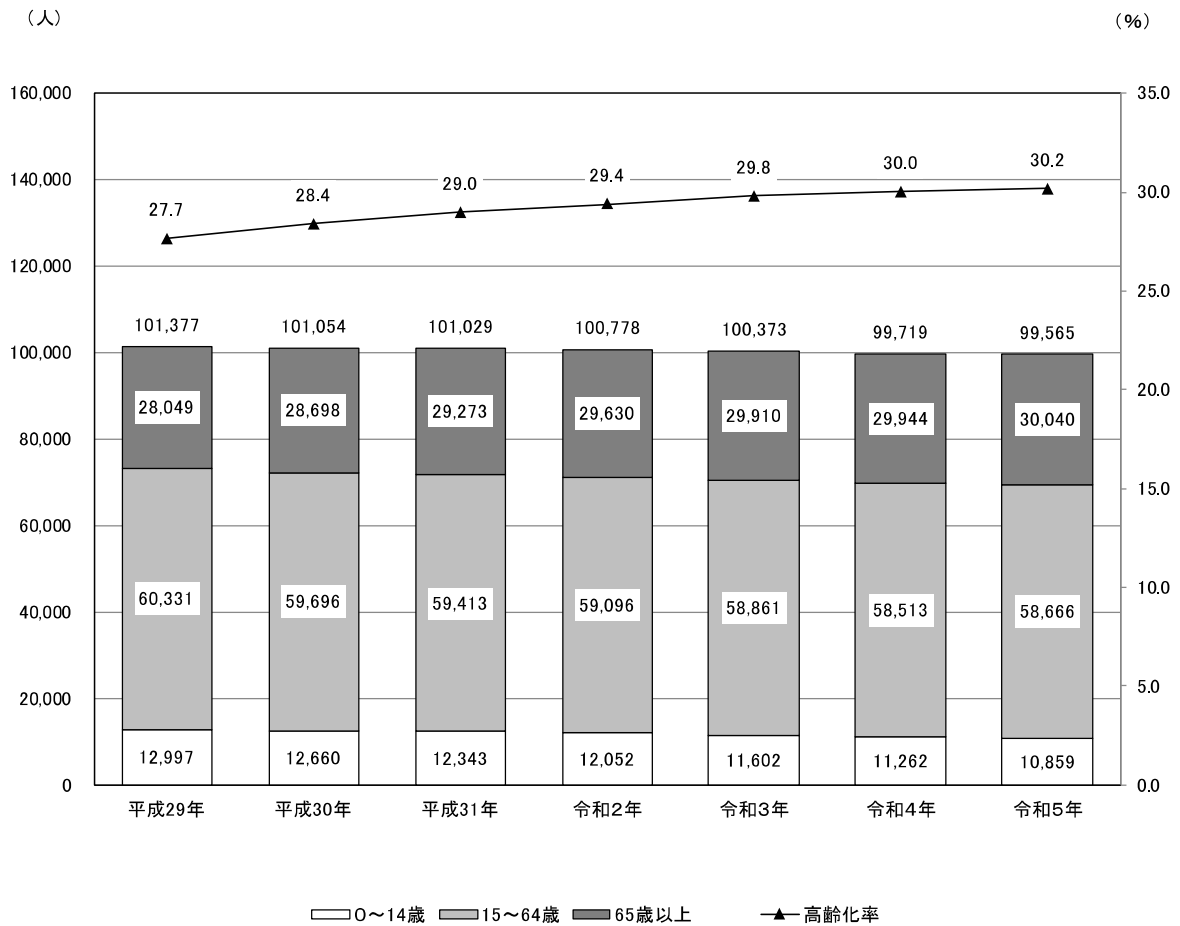
(1) 人口と世帯の推移

①人口の推移

令和5年4月における本市の人口は、99,565人です。14歳までの年少人口及び15歳から64歳までの生産年齢人口は減少傾向にある一方、65歳以上の高齢者人口は増加傾向にあります。

また、高齢化率の推移をみると、平成29年から令和5年までの6年間で2.5ポイント増加しています。

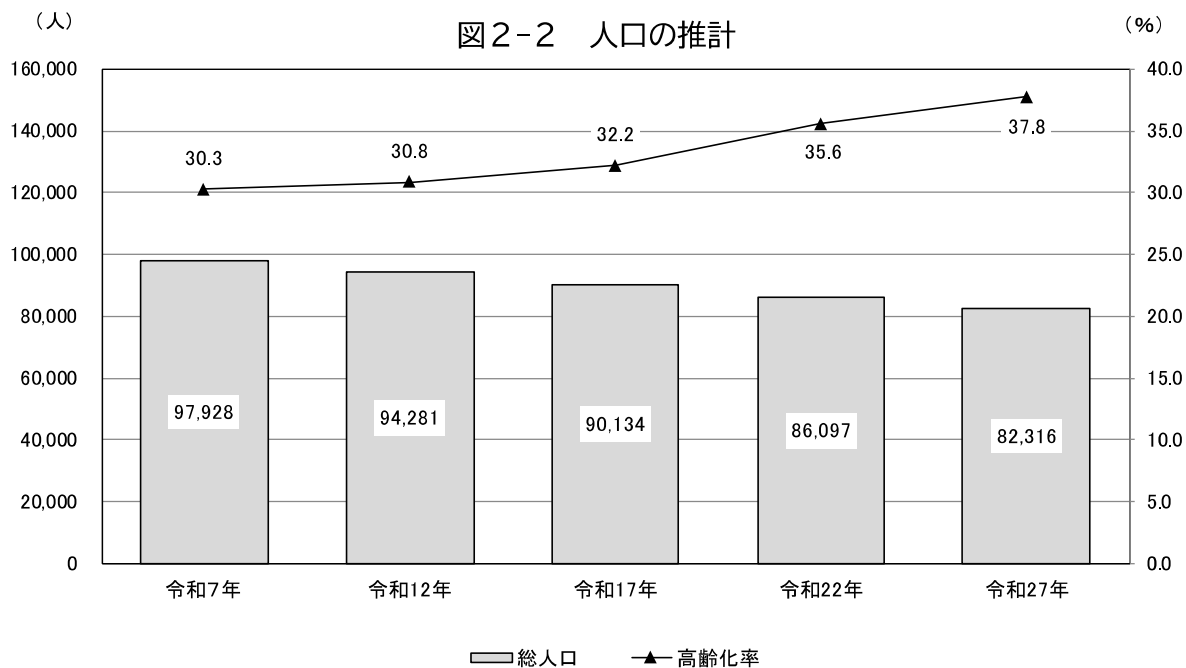
図2-1 人口の推移



資料：住民基本台帳（各年4月1日現在）

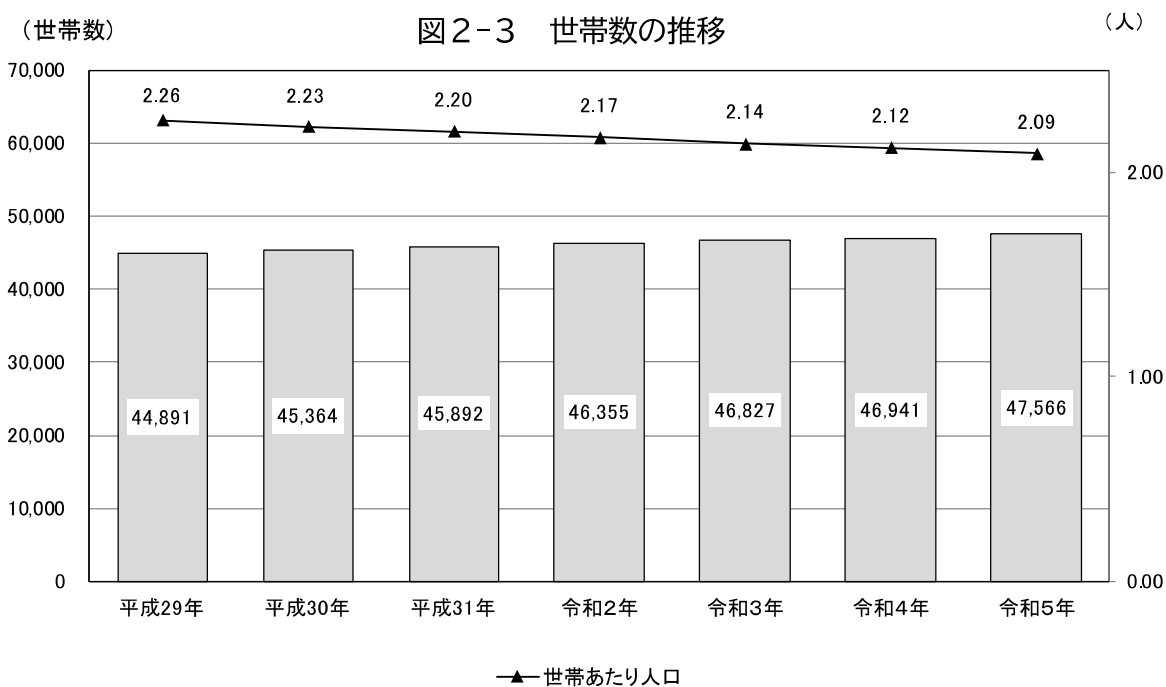
②人口の推計

本市の人口推計をみると、総人口は今後も減少する一方で、高齢化率は増加していくと見込まれます。



③世帯数の推移

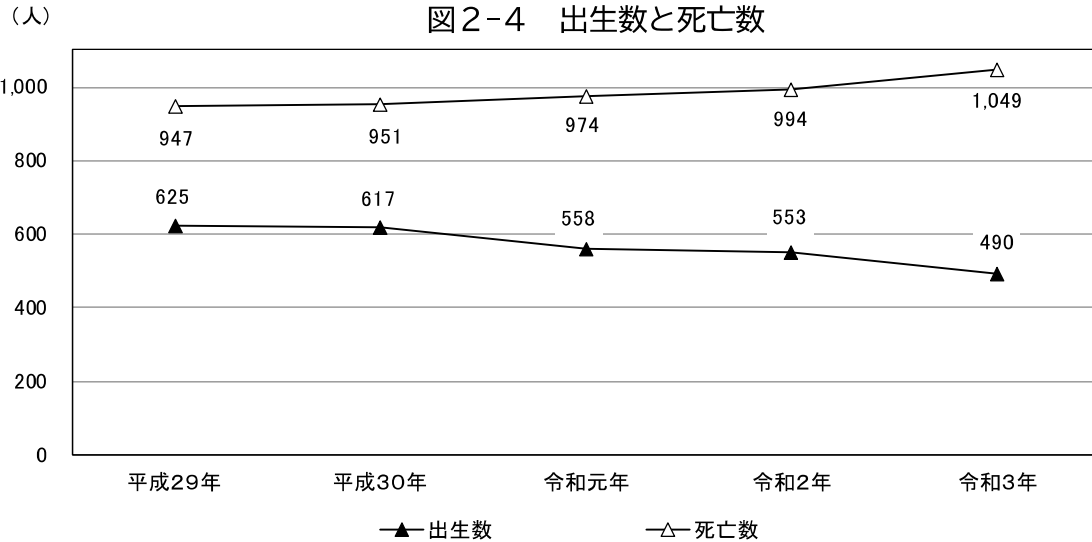
本市の世帯数は増加傾向にあり、令和5年では平成29年と比較すると2,675世帯増加していますが、一世帯あたりの人口をみると0.17人減少しています。



(2) 出生と死亡

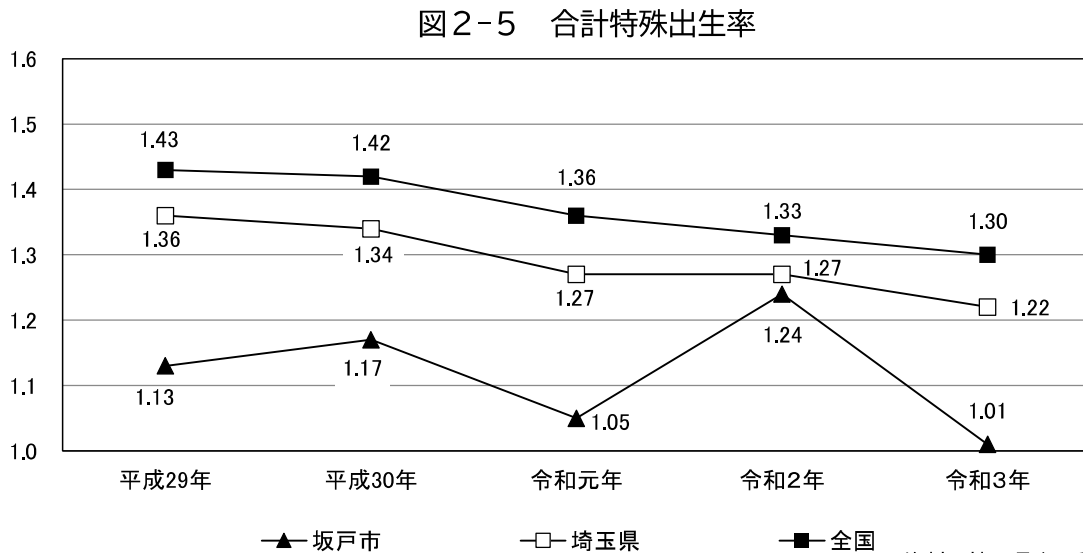
① 出生数と死亡数

本市の出生数と死亡数を比較すると、平成29年から出生数が減少し続けているのに対し、死亡数は増加しています。



② 合計特殊出生率^{※1}

本市の合計特殊出生率を埼玉県・全国と比較すると、県や国の数値を下回っています。また、本市の合計特殊出生率は平成29年から令和3年にかけて、増減を繰り返しているものの減少傾向にあります。

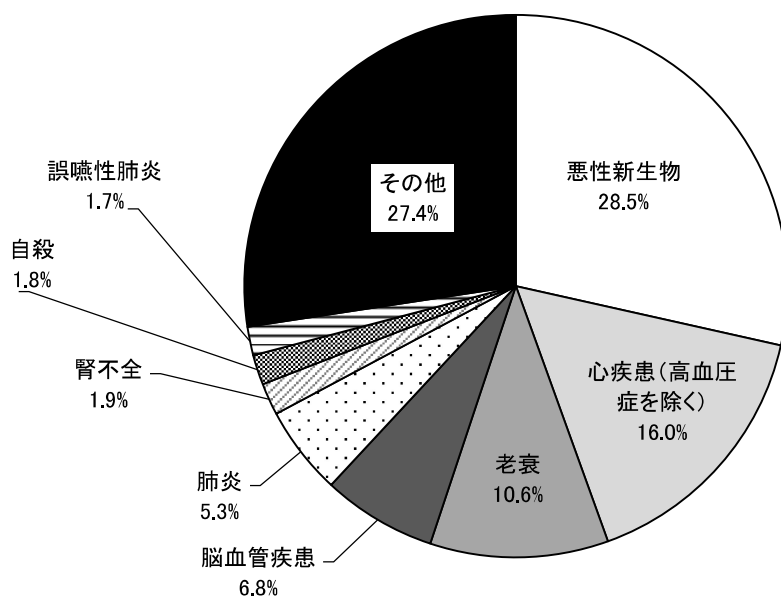


※1 合計特殊出生率：ひとりの女性が一生に産む子どもの数。その年における15歳から49歳までの女性の出生率を合計したものです。

③死因別割合（令和3年）

令和3年の本市の死亡者の死因をみると、悪性新生物^{※2}が28.5%と最も多く、次いで心疾患（高血圧症を除く）が16.0%、老衰が10.6%と続いています。

図2-6 死因別割合



資料：埼玉県衛生研究所

④標準化死亡比^{※3}（平成29年～令和3年）

平成29年から令和3年までの本市の死亡者について、埼玉県を100とした標準化死亡比をみると、男性において悪性新生物、心疾患、自殺、不慮の事故による死亡が埼玉県全体を上回っています。また、女性においては心疾患と自殺が埼玉県全体を上回っています。

表2-1 標準化死亡比

標準化死亡比(平成29年～令和3年)

基準集団:埼玉県100

	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	自殺	不慮の事故
男	102.7	106.9	97.5	84.1	102.1	101.2
女	97.8	105.8	97.2	83.0	111.6	79.3
総数	101.5	106.7	97.7	84.5	105.4	93.2

資料：埼玉県衛生研究所

※2 悪性新生物：細胞が何らかの原因で変異して増殖を続け、周囲の正常な組織を破壊する腫瘍のこと。がんなどがこれに該当します。

※3 標準化死亡比：年齢構成の違いによる影響を除いて死亡率を比較するための指標。埼玉県の平均を100として、100を超えると県平均よりも高い死亡率と判定されます。

⑤ ライフステージ別死因順位(平成29年～令和3年)

平成29年から令和3年までの本市における5年間の死因順位をみると、総数では第1位が「悪性新生物」、第2位が「心疾患(高血圧性を除く)」、第3位が老衰となっています。

ライフステージ別にみると「悪性新生物」が幼年期、少年期、中年期、高齢期で第1位、壮年期でも「自殺」に次いで第2位となっています。特に、中年期においては、「悪性新生物」が死因の約4割を占めています。

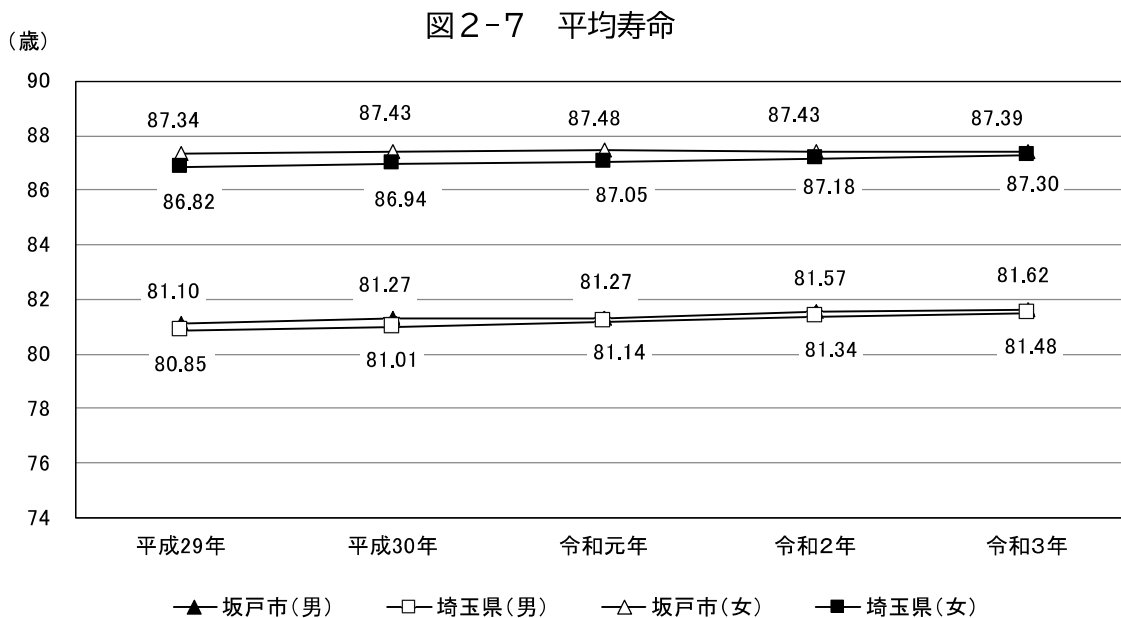
表2-2 ライフステージ別死因順位

	幼年期 (0～4歳)	少年期 (5～14歳)	青年期 (15～24歳)	壮年期 (25～44歳)	中年期 (45～64歳)	高齢期 (65歳以上)	総数
第1位	悪性新生物 16.7%	悪性新生物 25%	自殺 60%	自殺 28.4%	悪性新生物 41.0%	悪性新生物 28.9%	悪性新生物 29.7%
第2位	周産期に発生した病態 16.7%	不慮の事故 25%	心疾患(高血圧性を除く) 10%	悪性新生物 24.3%	心疾患(高血圧性を除く) 18.5%	心疾患(高血圧性を除く) 16.5%	心疾患(高血圧性を除く) 16.5%
第3位	先天奇形、変形及び染色体異常 16.7%	自殺 25%	不慮の事故 10%	心疾患(高血圧性を除く) 10.8%	自殺 7.6%	老衰 11.0%	老衰 9.9%
第4位	不慮の事故 16.7%			不慮の事故 8.1%	脳血管疾患 4.4%	脳血管疾患 7.2%	脳血管疾患 6.9%
第5位				脳血管疾患 5.4%	肝疾患 2.9%	肺炎 6.7%	肺炎 6.1%
第6位				肝疾患 5.4%	不慮の事故 2.3%	腎不全 2.1%	不慮の事故 2.1%
第7位				敗血症 1.4%	糖尿病 1.8%	不慮の事故 1.9%	腎不全 1.9%
第8位				その他の新生物 1.4%	肺炎 1.3%	アルツハイマー病 1.3%	自殺 1.7%
	その他 33.3%	その他 25%	その他 20%	その他 14.9%	その他 20.1%	その他 24.5%	その他 25.1%

資料：埼玉県衛生研究所

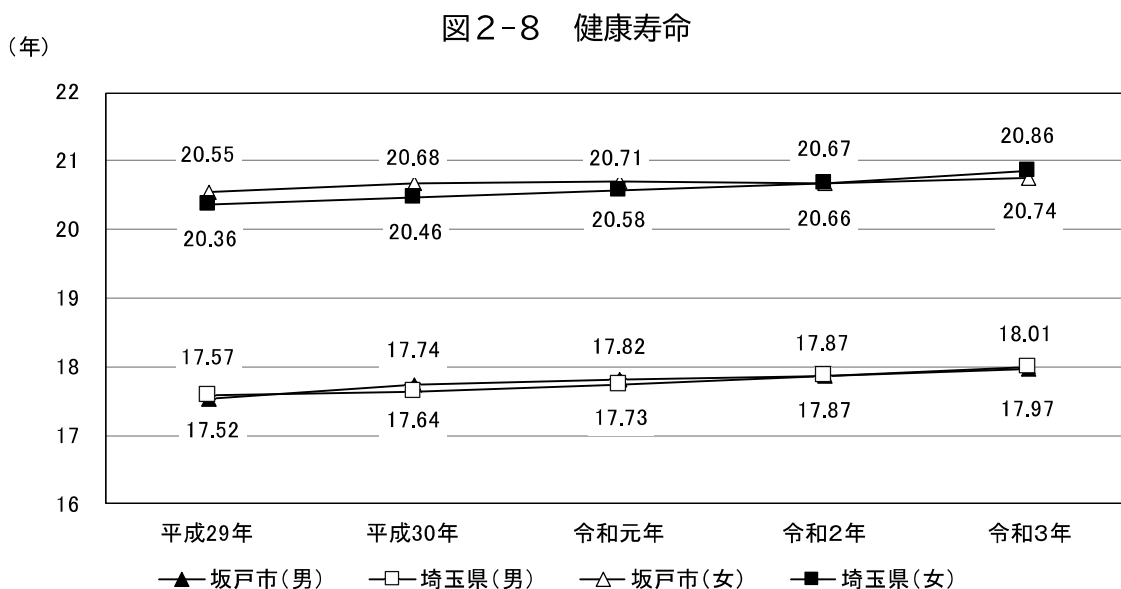
⑥平均寿命

本市の平均寿命についてみると、男女ともに平成29年から令和3年まで横ばいで推移しており、埼玉県とほぼ同じ数値となっております。



⑦健康寿命^{※4}

本市の健康寿命についてみると、平成29年から令和3年までに男性は0.45歳、女性は0.19歳延伸しています。



※4 健康寿命：65歳になった人が要介護2以上になるまでの期間をいいます。

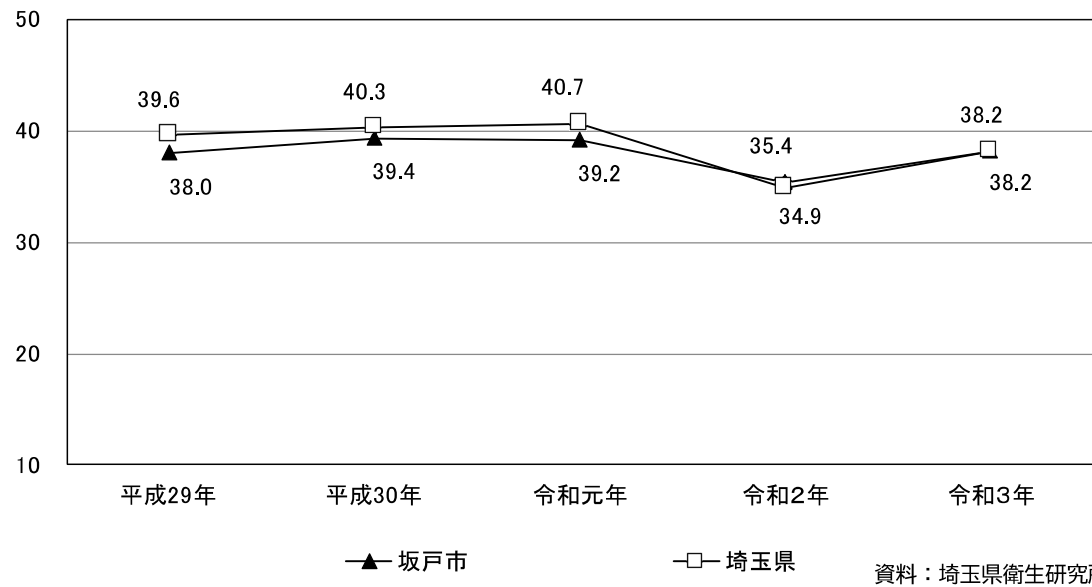
(3) 健診の受診状況

① 特定健康診査の受診率の推移

本市の特定健康診査の受診率の推移をみると、平成 29 年から令和 3 年までの5年間で 0.2 ポイント増加しています。

新型コロナウイルス感染症の流行の影響により、令和 2 年の受診率が低くなっています。

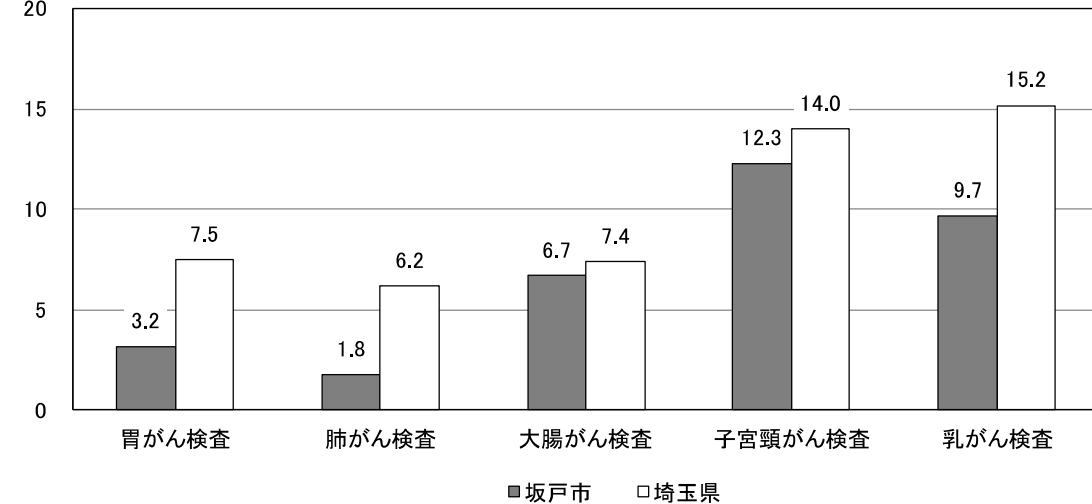
図 2-9 特定健康診査の受診率の推移



② がん検診の受診状況^{※5} (令和元年)

令和元年における本市のがん検診の受診状況は、埼玉県と比べて低くなっています。

図 2-10 がん検診の受診状況



※5 健康増進法第 19 条の 2 に基づいて市町村が実施するがん検診。

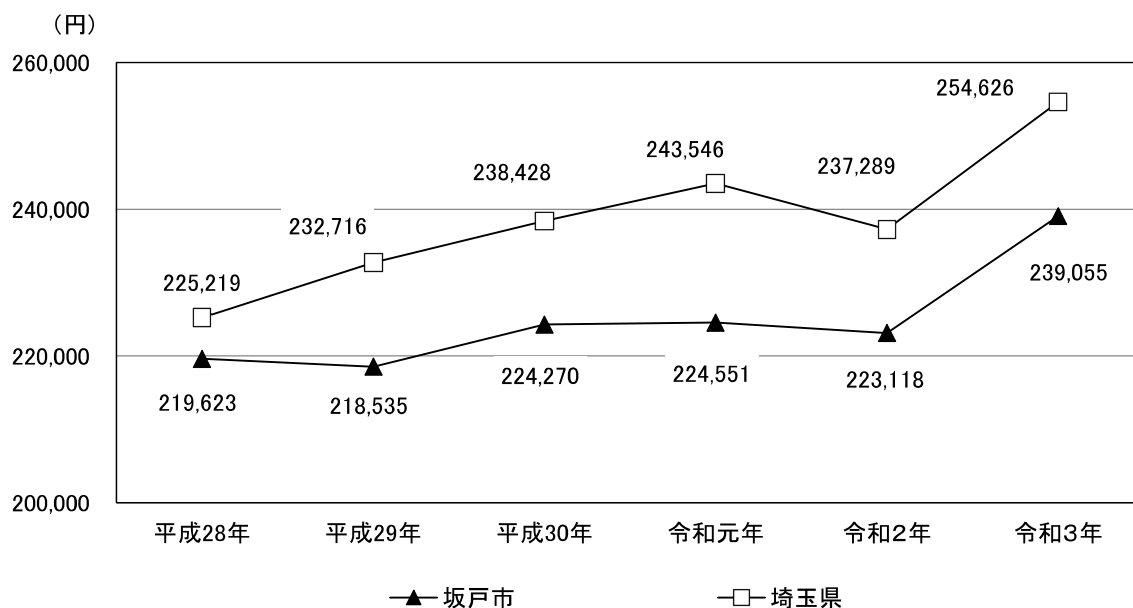
(4) 医療費の状況

①医療費（医科）の推移

坂戸市国民健康保険における医療費では、平成28年と令和3年を比較して、医科は19,432円増加、歯科は149円増加、調剤は808円増加しています。

また、埼玉県と比較すると、医科・歯科・調剤のいずれも医療費は下回っています。

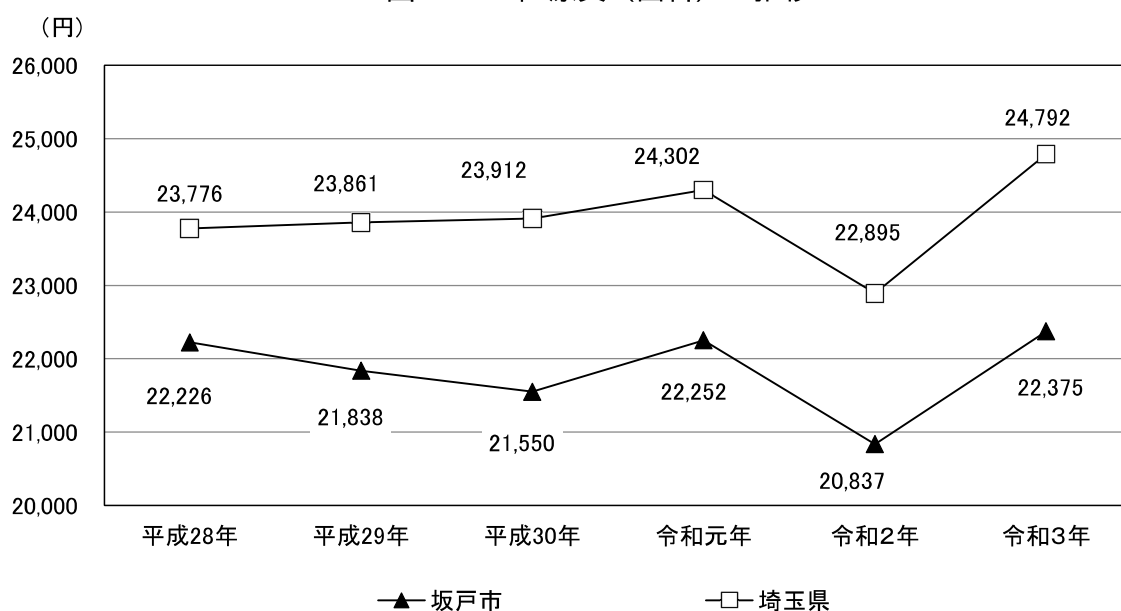
図2-11 医療費（医科）の推移



資料：埼玉県国民健康保険団体連合会

②医療費（歯科）の推移

図2-12 医療費（歯科）の推移

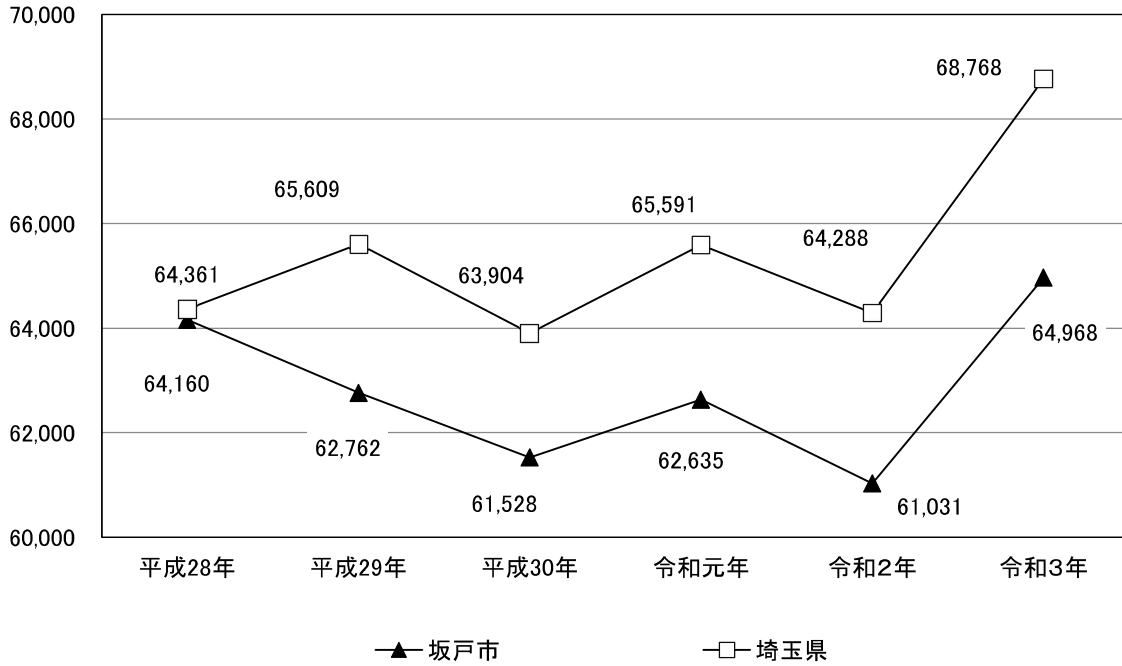


資料：埼玉県国民健康保険団体連合会

③医療費（調剤）の推移

(円)

図2-13 医療費（調剤）の推移

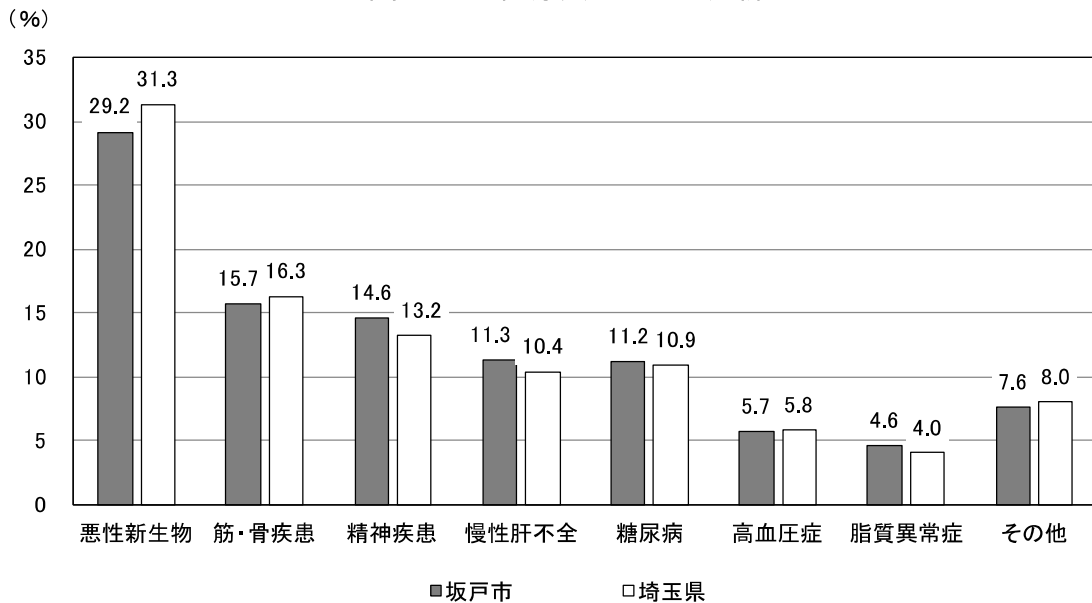


資料：埼玉県国民健康保険団体連合会

④医療費データの分析（令和4年度）

令和4年度の坂戸市国民健康保険被保険者の医療費データの割合を埼玉県と比較すると、ほとどの疾病も同じ割合となっていますが、「悪性新生物」がやや低くなっています。

図2-14 医療費データの分析



資料：KDB システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康問題」

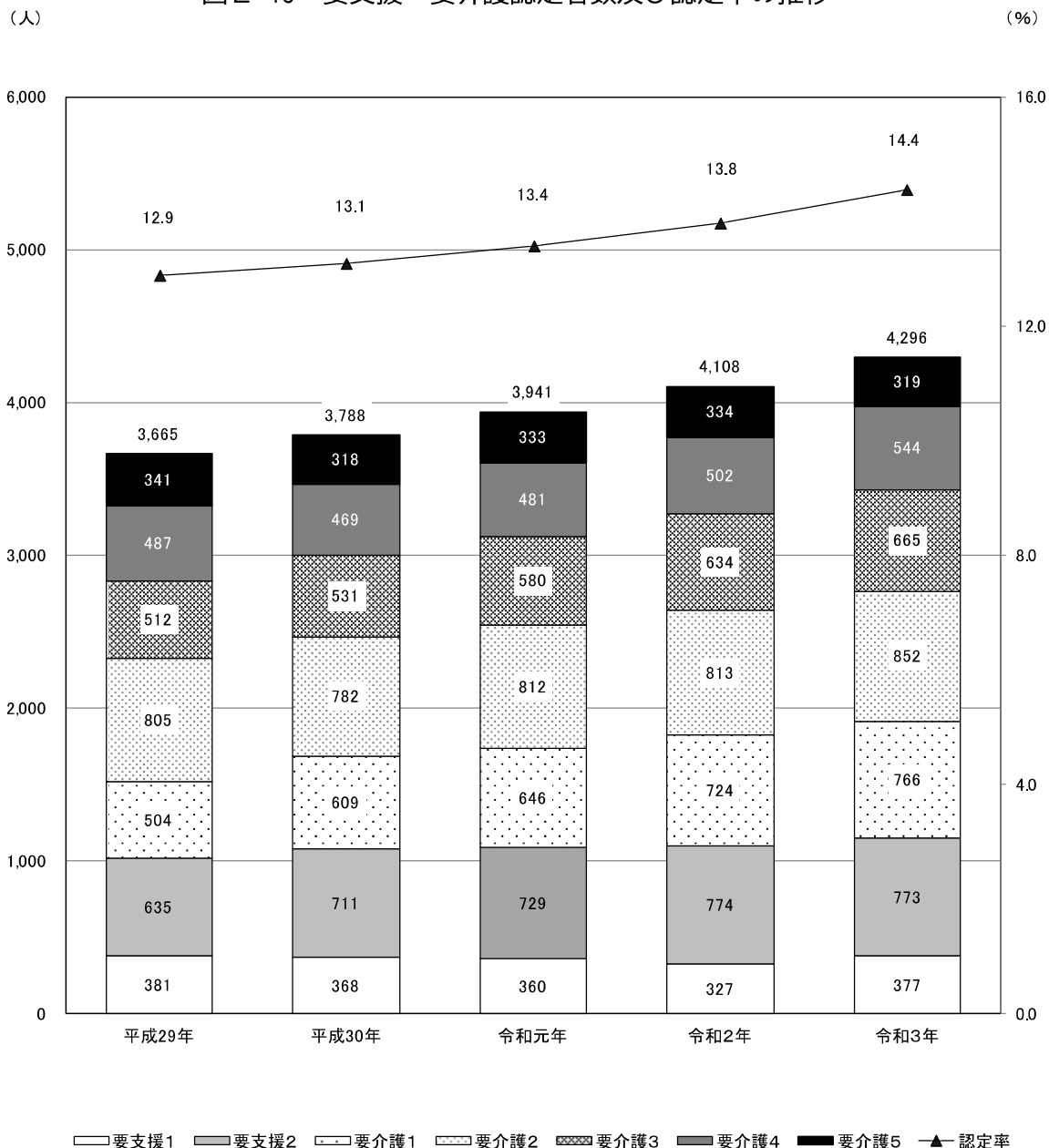
(5) 介護保険の状況

①要支援・要介護認定者数及び認定率の推移

本市における要支援・要介護認定者数の推移をみると、平成29年から令和3年にかけて631人増加しています。特に、要介護1の増加が多くなっており、262人増加しています。

また認定率についても、平成29年の12.9%から令和3年の14.4%と、1.5ポイント増加しています。

図2-15 要支援・要介護認定者数及び認定率の推移



資料：坂戸市資料

2. 市民アンケート調査の概要

(1) 調査の概要

●目的

今回、市民の皆様のごところとからだの健康に関する意識、取組状況やご意見をお寄せいただき、第2次計画の最終評価を行うとともに、第3次坂戸市健康なまちづくり計画の策定にあたり、ごところとからだの健康づくりを、今後さらに推進していくための貴重な資料とするために調査を実施しました。

●調査期間

令和4年10月31日（月）～ 令和4年11月21日（月）

●調査方法

郵送配布・郵送回収

●調査対象者

坂戸市在住の10歳以上の市民の方を対象として、年代別に1,050名の無作為（令和4年9月1日現在）調査を実施しました。

●配布数及び回収数

対象者	配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
10歳代	150	53	35.3%	53	35.3%
20歳代	150	40	26.7%	40	26.7%
30歳代	150	61	40.7%	61	40.7%
40歳代	150	58	38.7%	58	38.7%
50歳代	150	63	42.0%	63	42.0%
60歳代	125	75	60.0%	75	60.0%
70歳代	100	66	66.0%	66	66.0%
80歳代以上	75	46	61.3%	46	61.3%
無回答	—	9	—	8	—
合計	1050	471	44.9%	470	44.8%

①調査結果（P31～）については、性別及び年代の設問に対して無回答者がいるため、性別・年代のnは全体の回答数とは異なります。

②各設問については、資料編にあるアンケート調査票（P109～）を参照ください。

3. 2次計画の評価

「第2次坂戸市健康なまちづくり計画」は、地域の「健康なまちづくり」に向けた重要な指針として、平成26（2014）年から令和5（2023）年までの10年間にわたり各種取組が実施されました。

第2次計画で設定した重点目標及び基本目標の達成状況から評価を行うことで、本計画の方向性を改めて検討し、改善が必要な施策に重点を置くことで、今後さらなる「健康なまちづくり」を強化し、持続可能な発展に向けて前進します。

（1）評価基準と評価区分

評価基準	評価区分	評価の数
目標達成	A	7
現時点で目標に達していないが改善傾向にある	B	6
目標未達成	C	22

（2）重点目標と基本目標の評価

①楽しくかしこく食べて健康な心と身体を育む

【A評価の数：2 B評価の数：1 C評価の数：9】

■は重点目標

※（ ）はH30(2018)年度中間値

指標	R5(2023)年度 目標値	R4(2022)年度 実績値	評価
朝食を毎日食べる20歳代の市民（20歳代）	65.0%	52.5% (59.0)	C
主食・主菜・副菜のそろった食事を1日2回以上とっている市民（20歳以上）	85.0%	74.1% (76.6)	C
塩分を摂り過ぎないようにしている市民（20歳以上）	80.0%	73.8% (79.2)	C
よく噛んで食べている市民（20歳以上）	85.0%	55.5% (77.5)	C
自分で手作りの食事を準備できる市民（15歳以上）	90.0%	73.8% (76.5)	C

日々の食事が動植物の命や自然の恵みによって成り立っていることをいつも感じる市民（15歳以上）	50.0%	30.9% (29.3)	B
家族や友人と食事をする日が週6回以上ある市民（20歳以上）	80.0%	62.6% (64.6)	C
坂戸産の食材を利用している市民（20歳以上）	65.0%	51.1% (51.5)	C
自分にとって適切な食事内容、量を知っている市民（20歳以上）	増加	84.8% (83.1)	A
葉酸（ようさん）というビタミンをよく知っている市民（20歳以上）	増加	40.6% (36.8)	A
1日に野菜料理を5皿以上食べている市民（20歳以上）	増加	5.9% (9.8)	C
食を通じた健康づくり応援店を知っている市民（20歳以上）	増加	31.5% (41.0)	C

②日常的に楽しく身体を動かす【A評価の数：1 B評価の数：2 C評価の数：0】

指標	R5(2023)年度 目標値	R4(2022)年度 実績値	評価
週4日以上、意識的に身体を動かしている市民（20歳以上）	55.0%	40.1% (35.1)	B
日頃楽しく運動をしている市民（20歳以上）	60.0%	47.7% (44.7)	B
1日に1時間以上歩いている市民（20歳以上）	増加	35.9% (25.5)	A

は重点目標

※（ ）はH30(2018)年度中間値

③自分自身の身体をいたわる

④歯と口の健康を保つ【A評価の数：4 B評価の数：1 C評価の数：6】

指標	R5(2023)年度 目標値	R4(2022)年度 実績値	評価
過去1年以内に健診や人間ドックを受けている市民	80.0%	73.6% (72.6)	B

年に1回以上歯科健診を受けている市民（20歳以上）	50.0%	50.9% (38.4)	A
歯や歯ぐきについて気になることがない市民（20歳以上）	増加	25.4% (36.5)	C
過去1年以内に胃がん検診を受けた市民（20歳以上）	増加	25.4% (31.6)	C
過去1年以内に肺がん検診を受けた市民（20歳以上）	増加	23.0% (27.9)	C
過去1年以内に大腸がん検診を受けた市民（20歳以上）	増加	32.5% (35.8)	C
過去1年以内に乳がん検診を受けた市民（20歳以上の女性）	増加	31.1% (27.5)	A
過去1年以内に子宮頸がん検診を受けた市民（20歳以上の女性）	増加	32.8% (33.9)	C
健康診断で異常が認められたとき、それに基づいて生活習慣を見直している市民（20歳以上）	増加	38.3% (34.9)	A
タバコを吸っていない市民（20歳以上）	増加	81.2% (82.4)	C
他人にタバコの煙を吸わせないようにしている市民（20歳以上喫煙者）	増加	84.7% (76.9)	A

は重点目標

※（ ）はH30(2018)年度中間値

⑤自分らしく生き生きチャレンジする【A評価の数：0 B評価の数：0 C評価の数：2】

指標	R5(2023)年度 目標値	R4(2022)年度 実績値	評価
夢・生きがい・目標を持つ市民（20歳以上）	80.0%	59.7% (67.9)	C
自分らしい人生を送る市民（20歳以上）	85.0%	69.7% (74.5)	C

は重点目標

※（ ）はH30(2018)年度中間値

⑥人と人がふれあう機会をつくる【A 評価の数：0 B 評価の数：1 C 評価の数：3】

指標	R5(2023)年度 目標値	R4(2022)年度 実績値	評価
月1回以上、地域活動に参加する市民 (20歳以上)	40.0%	20.8% (23.7)	C
自分から積極的に外出する市民(20歳以上)	75.0%	58.9% (55.7)	B
いつも家族や仲間に囲まれて生活している市民 (20歳以上)	95.0%	82.6% (84.1)	C
身近な人にあいさつをしている市民(20歳以上)	100.0%	92.2% (94.6)	C

は重点目標

※ () は H30(2018)年度中間値

⑦みんなで健康を支える環境をつくる【A 評価の数：0 B 評価の数：1 C 評価の数：2】

指標	R5(2023)年度 目標値	R4(2022)年度 実績値	評価
いざという時、助け合える環境が身近にあると 感じる市民(20歳以上)	85.0%	57.7% (67.2)	C
歩いている気持ちの良いきれいな景観、楽しい 景観などがあると感じる市民	70.0%	65.5% (61.6)	B
自分が住んでいる地域の人々はお互いに助けあ っていると思う市民	増加	40.6% (48.9)	C

は重点目標

※ () は H30(2018)年度中間値